

# 上神明 天祖神社社報

第183号 平成24年9月1日



## 社頭所感

天祖神社宮司 斎藤篤信

おまつり

— 神輿について —

全国の神社では、多くの祭礼がおこなわれており、その中でも神輿の渡御は、担ぎ手はもとより、大勢の見物人までが酔いしれる勇壮な神事です。

今年も例大祭が迫って参りましたが、盛大に執り行うことが出来ませう様、心から願ってやみません。

神輿とは、その名前の通りに神霊(御霊代)を奉安する輿(こし)のことをいいます。元来、輿とは貴人が用いた乗り物の総称ですが、中でも天皇の行幸(ぎょうこう)に際して用いられた「鳳輦(ほうれん)」が、神社の奉遷の際にも用いられるようになりました。

神輿の起源については、はっきりしていませんが、天平勝宝元年(七四九年)に宇佐神宮の八幡神が来京して、奈良東大寺の大仏建立を援助するとの託宣を下した際、この遷座に初めて紫色の輿が用いられたと伝えられています。

平安時代以降、神輿による神事が広く普及するようになると、その様式もそれぞれ時代の意匠を伴った形で変化していきました。

近世に入ると、祭りを支える町人層が富裕になるのに伴って、神輿渡御もさらに盛大となり現在に至っています。

神輿を担ぐことは、神と人との間はもちろんのこと、人と人との関係を結びつける働きもあり、これが盛んに行われている理由です。

# 九月(長月)を迎えて

氏子総代会会長 草柳洋一

日頃は氏子の皆様には何かと神社の行事にご協力頂きますこと誠に有り難く深く感謝申し上げます

九月に入りますと、風物のたたずまいは眠に見えて秋らしくなります。秋立つと云うより人の主観が秋を感じとることに敏感になり、雲の動きや吹く風の気配に秋が忍び寄って来ます。お祭りの声を聞くと、秋の日の暑さはしつこく残りますが、月が澄み虫の音が響いて、秋祭りの日が近づくのが楽しみになります。やがて厳肅な神輿御霊遷しの儀式から例大祭の行事が始まり、神酒所祓いから神輿や山車が出て、お祭りが盛り上がります。祭の宵には境内に夜店が並び奉納演芸大会がくり広げられ、祭の風情を一層引き立たせます。祭りが終わると残暑もやわらぎ秋風の立つ日が多くなり、秋彼岸がすむと秋の七草が咲き、天高く、めっきり秋らしさが加わり、秋の夜長を楽しみます。

世界の経済は秋には恐慌期に入り、国内も増税と国会解散の駆け引きが進む中で経済は下向して行くとも云われます。又、中国や韓国がしつこく領有権を迫ります。何かと不祥問題の多い昨今ですが、自らの生きる道を冷静に定めて、今ある生活環境を大切にして、かけがえのない絆やご縁を大事にして行きたいと思えます。

氏子の皆様には季節の替る折柄、くれぐれもご自愛下さい。今後共ご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

## 平成二十四年度祭礼行事日程

- 一、例大祭日 九月十五日(土)
- 一、神輿御霊遷しの儀 九月十四日 午後九時
- 一、神酒所祓い 九月十五日 午前中
- 一、奉納演芸 九月十五日 午後七時
- 一、例大祭式典 九月十六日 午前十時半
- 一、浦安の舞 九月十六日 午後七時
- 一、奉納演芸 九月十六日 午後七時十分

## 月次祭

毎月一日午前七時より、その月の氏子の皆様の家内安全を祈る月次祭を行っております。当日は御神前にて宮司が祭儀を厳修し、参列者一同で「大祓詞」を奉唱し、玉串を捧げます。式典後社務所において「朝粥」を食し歓談いたします。

- ★七月一日に参列なさった方々のご芳名  
草柳洋一様、矢羽直公様、金子省太郎様  
柵木ヒサ様、高須みちよ様、井渕良子様
- ★八月一日に参列なさった方々のご芳名  
草柳洋一様、矢羽直公様、金子省太郎様、  
柵木ヒサ様、高須みちよ様、井渕良子様、  
吉川トミ様、富田登美子様

## 神様の中心は

### 伊勢の神宮の神様

八百万やおよろずといわれる神々、また全国各地の神社をはじめ、祠ほらや神棚などにお祭りされる神々、そして私たちの信仰に直接関わって氏神さま、全国には数限りない神さまがさまざまな形でお祭りされ、信仰されていますが、そうした神々の中心になるのが、伊勢の神宮にお祭りされている天照坐皇大御神あまてらすおおみかみです。(天照大御神)  
皇族の祖先神であるとされ、「天に照り輝く尊い神」という意味を持ち、日の神様であることの意味しています。

太陽は、生きとし生けるものすべての共通の命の根源です。また、私たち日本人の生活の根源であった稲を育むのも太陽です。

この天照大御神を神々の中でも最高の神格を持った神さまとしてお祭りしてきたことは当然のことだといえるでしょう。

各地の神社に祭られている神さまは、昔から地域の人々にとっては村や郷の共同体の生産と生活に密着した、たいせつな守り神です。

## 奉納演芸について

### 各町婦人部長様のお言葉

いよいよ秋祭りの季節です。毎年祭りのお世話と神社の演芸大会のためにご苦労なさつておられる婦人部長様より一言コメントをいただきました。

### — 盛大なお祭りに —

豊町六丁目婦人部長 柴田よし子

今年が残暑が厳しく蝉の鳴き声に尚更暑さを感じますが、立秋も過ぎ朝夕は大分爽やかな風が吹く昨今です。オリンピックも一喜一憂、メダルの数も多く無事に幕を閉じました。早いもので当地にもお祭りの季節が訪れてまいりました。各町会でもこれから準備に取りかかり、賑やかにする事でしよう。孫たちも祭りに際し、お囃子の稽古をしております。奉納演芸大会にてお子さまや大人の方々も練習を積み重ね大いに発揮し踊って下さい。天候に恵まれ無事盛大なる例大祭が行われます事、心よりお祈り申し上げます。

### — 祭りを迎えるに当たり —

戸越六丁目婦人部長 井淵 良子

毎日残暑と言うより、酷暑の日が続き、又局地的な豪雨が日本と言わず世界中に起きております。水害に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。一方オリンピックでは、日本選手の活躍が見られ、メダルの数も最大に取る事が出来たのは、日本にとっても喜ばしく、明

るいニュースではないでしょうか。

今年も例大祭の季節が、やって参りました。各町会での神輿、山車、太鼓の音、と共に大人、子供、町中が一層賑やかになって参ります。夜は、奉納演芸大会が行なわれ各町会の方々の日頃の成果が発揮される事でしょう。

皆様のお力添えを頂きながら、役員の一人として進行出来る様努めたいと思います。

例大祭が無事に終了する様、お祈り申し上げます。

### — 例大祭が無事に行われますように —

二葉三丁目婦人部長 加藤 光子

暑い夜に、聖火の様に心が熱く燃えた十七日間に亘って開催されました『ロンドンオリンピック』も終わりました。今大会日本選手団は、三十八個のメダルを獲得し多くの感動を貰いました。大きな目標を持って夢に向かっの努力。勝って涙、負けて涙、美しいものです。選手の皆様には、ご苦労様でした。有難うございましたとお礼申し上げます。

氏神様の境内に老若男女が集い、秋の例大祭で奉納踊りを行います。各町会の皆様が日頃研鑽なさいました演目をご披露ください。

九月十五日、十六日午後七時開演です。ご家族近隣お誘い合わせの上お出掛け下さい。

天候に恵まれ無事に例大祭が行われます事をお祈り申し上げます。

### — 奉納演芸大会に向けて —

二葉四丁目婦人部長 岡村かの子

今年の暑さは格別ですが、立秋も過ぎました。が厳しい暑さは続きそうです。地方では豪雨や強風で家屋を流され、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

今年も例大祭が行われますが、山車、神輿を担ぐ子供達の元気な掛声、太鼓の響き、大人神輿の姿も壮観です。夜は天祖神社境内で奉納演芸大会が行われます。又、各町会の方々が日頃の練習の成果をご披露して下さい。かわい子供達と一緒に婦人部の方も先生のご指導を受けて一生懸命練習に励んで居ります。今年も奉納演芸大会にご参加くださる皆様のお蔭で奉納演芸大会も盛大に進行できますことを願っています。天候に恵まれ無事に例大祭が行われますことをお祈り申し上げます。

### — 盛大なお祭りに —

豊町五丁目婦人部長 佐久間華代子

今年も豪雨、猛暑とたくさんの方々被害にあわれました。被害にあわれた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

お祭りの季節がやってきました。子供達の踊のお稽古が始まると、今年もお祭りができて良かったと思います。大人も子供も待っていただくお祭りに心を踊らせながら、準備を進めていただき、微力ながら役員の一人として精一杯努めてまいりたいと思います。無事に祭典が行われるよう、心よりお祈り申し上げます。

## 毎日を充実して生きるために

この世に不安のない人はいないでしょう。将来のこと、仕事のこと、家族のこと、健康のこと、さまざまな人との関係のこと…。みんな何らかの、そして大なり小なりの不安を抱きながら毎日を生きています。

生きていければ、不安や不満はあって当然なのです。なのにそれを避け、自分にブレーキをかけ、本来の力や魅力を発揮できないでいる人がいかに多いことか。

毎日を楽しく元気に生きるため、誰もが出来る小さな習慣を集めてみました。

まず、あいまいな言葉を減らして、意志の強い会話をいたしましょう。次は、言葉使いをていねいにすると、人に優しくなれます。「話す」より「聞く」ことに集中すると、他人に愛されるようになるものです。そして他人の長所を少し大げさにほめてみましょう。どんどん笑顔が増えて来ます。

「今日も必ずいいことがある」と朝起きたときに、言ってみましょう。心がパツと輝きます。不安なときは「大丈夫」と唱えましょう。なぜか自然に道がひらけて来るものです。

自分の好きな趣味をする時間をつくりましょう。いつも笑顔の人になれるのです。

## 各地区敬老クラブの境内清掃に感謝

毎月十日は各地区敬老クラブの方々による境内清掃奉仕が行われております。今月も各地区より皆様が集まり境内の清掃奉仕をなさって下さいました。誠に有難うございます。

七月十日御奉仕の方々のご芳名

二葉四丁目 関谷 節子様、中村タミ子様  
豊町五丁目 相沢りつ子様、佐久間梅子様  
豊町六丁目 松下 咲子様、若山美智代様  
二葉三丁目 鈴木 仲子様、池田不二江様  
戸越六丁目 千明 和子様、梅原みえ子様

## 謹告

故 吉村紙業会長 吉村正雄様令夫人美智子様よりいただきましたご浄財で拝殿前階段の手すり及び稲荷社屋根塗装工事が全て完了いたしました。謹んでご報告申し上げますと共に深甚なる感謝の意を表します。

宮司



## 生命の言葉(九月)

敬天 愛人

西郷隆盛

天を敬い、天が人々を愛するように人を愛する。

西郷隆盛(さいこうたかもり)

幕末維新期、薩摩出身の武士、政治家、江戸城無血開城を実現させた。明治四年、参議に就任するが政府首脳と衝突して下野。明治十年、政府に不満を持つ士族らと西南戦争を起し、敗れて自害した。いかなる困難にも耐え、激動の世を生き抜いた西郷の信念といふべき言葉。

## 波立たぬこころの水面に

みなも

神の御光が澄みわたる

人の心はか弱く、喜怒哀楽様々な感情に揺れさわり、時には押し流される。殊に人を妬み怨む心は、大きな波紋となつて我が胸に打ち寄せ、返す波で相手をも傷付けるものです。

日々神様に御祈りを捧げ、心の波を静めましょう。穏やかで平らかな心の水面には、神様の御光りが清々しく澄み渡るでしょう。

〒一四二一〇〇四三

東京都品川区二葉四一四一十二

天祖神社々務所

TEL 〇三(三七八二)一七一

FAX 〇三(三七八二)一七一